

シンポジウム

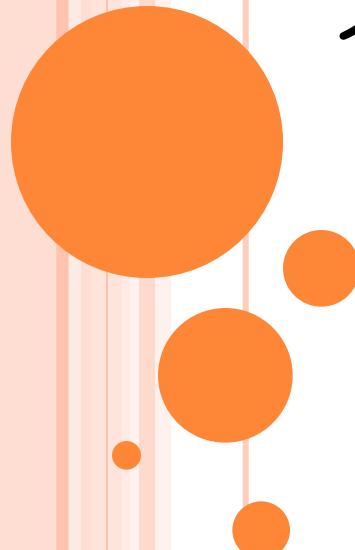
「世田谷版地域包括ケア 10年」

第1部

令和7年度

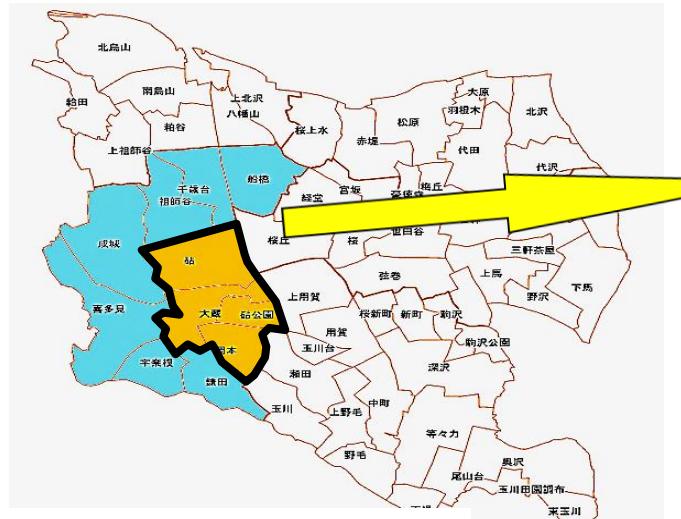
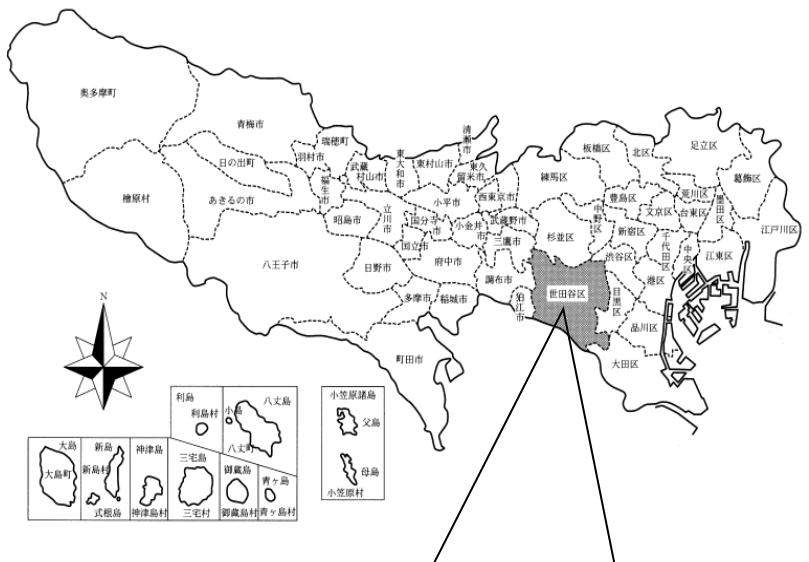


世田谷区における 「地域包括ケアの地区展開」の開始 スキームと四者連携の現状について



世田谷総合支所 保健福祉センター
保健福祉課 濵田 景子

■世田谷区の概要



世田谷区における砧地区の位置
※太枠内がモデル事業実施地区
(砧地区)

■東京23区の西南部に位置する住宅都市

■面積 58.05 Km² ■5総合支所 27地区

(平成27年10月1日現在 住民基本台帳より)

■総人口 881,733人

■65歳以上 176,797人(20.05%)

■要介護認定者数

34,936人 (20.3%) *平成26年3月末

■砧地域・砧地区の概要

◆砧地域の人口 158,666人

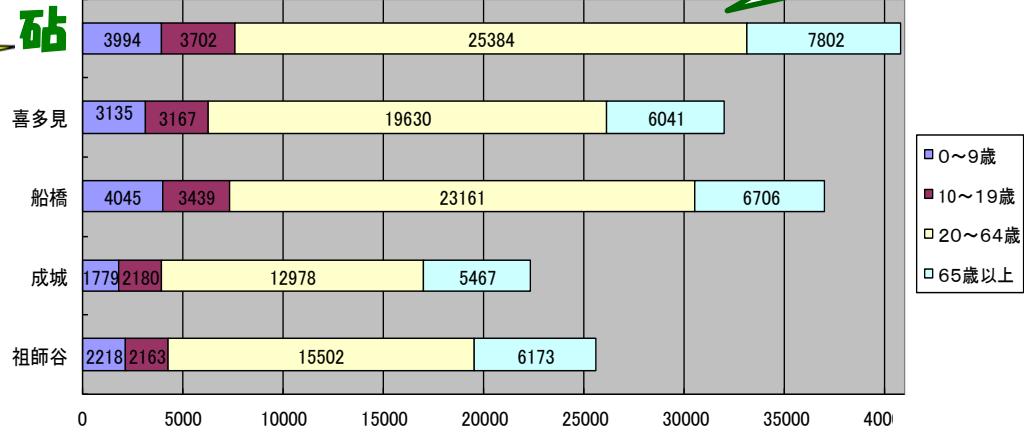
◆世帯数 74,176世帯

◆65歳以上 32,189人

◆高齢化率 20.29%

※砧地域の中で砧地区の人口が最も多い、20歳以上の人口が多い。

砧地域地区別人口構成
(平成27年10月現在)



■地域包括ケアの地区展開 のモデル事業概要(平成26年10月~)

【モデル事業の3つの視点】

- ① 身近な福祉相談の充実
- ② 地域の人材や社会資源の開発・協働
- ③ 三者の連携体制の構築と運営

1. あんしんすこやかセンター相談機能の拡充

～高齢者だけでなく、障害者、子育て家庭等に係る相談も実施～

2. 社会福祉協議会事業の地区展開への支援

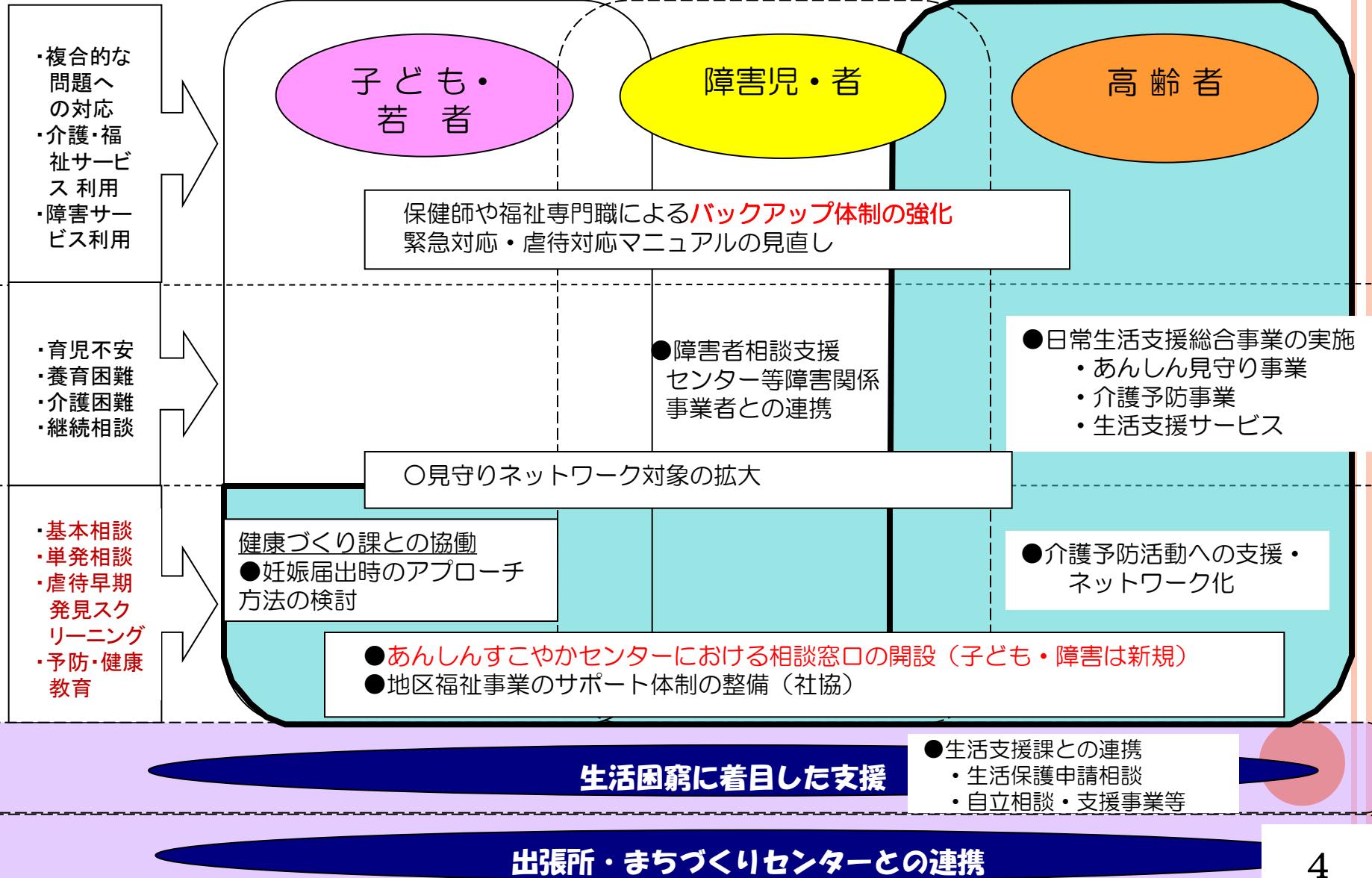
～まちづくりセンター内に社協スタッフの活動拠点を設け、地区内の関係団体等のネットワークづくりや地域資源開発等の事業展開を行う～

3. まちづくりセンターの役割

～三者が連携して対応し、相談体制をさらに充実させるとともに、三者の連携会議を開催し、情報共有や地区の課題整理・検討を行う～

■地域包括支援センター相談範囲とモデル事業イメージ

【 ●新規事業 ○拡充事業】



令和7年度 世田谷地域 四者連携による地区課題と取り組み

凡例: ●R7年度新規の取り組み ▲予定の取組み ◎継続中の取組み

| 地区 | 四者連携会議の状況 | | 取り組み | | | | | | 備考 | | | | | | | |
|-----|--|---------------------------------------|---|------------------------|---|--|---|---|--|--|---|---|---|----------------|---|----------------------------|
| | 地区アセスの検討 | 1 見守り・ ネットワー ク | 2 孤立化 居場所 交流・情報 手不足 | 3 地域で の担い 手不足 | 4 認 症 知 障 害 等 の理 解 | 5 防災・ 防犯 | 6 道路・交通 (生活環境) | ① ネットワーク づくり | ② 居場所づくり・ 多世代交 流 | ③ 移動販売 | ④ 地域デ ビュー応援 パックの配 付等 | ⑤ ACチームの状況 | 活躍の場・ 居場所 づくり | 防災訓練・ グッズ作成 | 地域交流 ラボ | |
| 池尻 | 連携会議以外の担当者会の状況 | 見守り・ ネットワー ク | 孤立化 居場所 交流・情報 手不足 | 地域で の担い 手不足 | 認 症 知 障 害 等 の理 解 | 防災・ 防犯 | 道路・交通 (生活環境) | ネットワーク づくり | 居場所づくり・ 多世代交 流 | 移動販売 | 地域デ ビュー応援 パックの配 付等 | ACチームの状況 | 活躍の場・ 居場所 づくり | 防災訓練・ グッズ作成 | 地域交流 ラボ | 特徴的な取組み等の補足 (数字は取り組み項目) |
| 池尻 | 各事業の情報交換に終始しがちだが、まちこま会に関する内容の課題等は4者で検討及び情報共有。地区ゼネの意見集約はメールで対応。 | 地域住民だけでなく事業者との協力、連携が十分でない | 不足していた多世代で参加できる場の創出 | 地域活動の新たな担い手不足 | 認知症や障害者が地域と繋がる機会が少ない | 避難所運営訓練や防災訓練への参加者が少ない | 246を挟んだ地区的分断による買い物不便 | ③三宿・池尻 まちこま会 ・テーマ 「地域の担い手、それぞれの立場から」 | ◎*1 みちあそび、外遊び (二どもの日池尻プレーリー。 がやがや村まつりみちあそび、まちなか作品展 展示)◎②まちこま会、まらなか作品展 きんじ市、マツコ大会 *2 居場所機能「あおぞら」と金画機能「あおぞら会議 | ◎*4 セブンイレブン *2 「あおぞら」とコラボ | ◎児童館利用の中高生のボランティア参加を促す。 ◎PTA、おやじの会等との交流を通じて人材発掘 ◎まちこま会 | ◎*3 にんにん会 *2 居場所機能 「あおぞら」(ボッチャ体験交流会) | ◎*4 ファーストアクションセンター」を使用した指定避難所の開設訓練 ◎「在宅避難」の案内 防災祭での講義 避難所運営のマニュアルの充実 SNSを活用した広報 | 昭和女子大 | *1 池尻児童館60周年記念懇親会、祭りを実現する目的としたイベント *2 移動販売に来た区民や行事を通じた多世代交流の場 *3 障害・障害者、年長者、属性を問わずに人がつながる場 *4 食料品の他に日用品・公共料金の支払い等、区内容認充実 | |
| 太子堂 | 四者連携会議で地域課題について積極的に意見交換をしている。 | 地区アセスはまちこま会の案に賛同し、メールで意見集約。 | ・子どもの場及び多世代の交流不足 ・支え合い活動の欠点不足 ・児童館・園児館・図書館・公園等の公共施設なく、地域住民の交流活動の参加機会が限られている | 地域活動の新たな担い手不足 | 発災時の自助の理解・活動意識が不十分 | 各イベントを通して商店街、民間事業者、大学等との交流を進め、ネットワークを強化 | ◎各イベントを通して商店街、民間事業者、大学等との交流を進め、ネットワークを強化 | ◎*1 「三茶みちあそび」「外遊び」プロジェクト *2 「三茶みちあそび実委員会」を結成し、二どもの日の居場所確保・民間事業者等への活動の輪の働きかけ ◎*3 おもてなしの会、まちなかの会等の公共空間を活用したイベント・社会実験・たよりりカフェ(JKK、社協) | ◎*2 民間事業所や個人経営店等で組合い実施・登山、お出かけプログラム等企画・せたがや福祉区民学会で発表 | ◎ふれあい広場を活用した取組み・オレンジの日、あんしんフォア、青空ラジオ体操、青空スクワード講演、青空保健相談室、青空カフェ | ◎町会や区の他、小学校、中学校を含め、サバイバルキャンプなど様々な防災訓練、避難所運営訓練を実施 ◎活動スペース隣保のため民間団体の連携等活用 SOMPKAアート、まちのST(高齢者向けケルベロスセンター)、くらしの友会、西宮市立幼稚園、スマーベースココカラ。等を活用してACチーム打合、スマーベースを開催 | 昭和女子大 ●日本大学危機管理学部 | *1 池尻児童館懇親会、がやがや祭り(児童館の周年記念を契機)を通じた、多世代交流の実現 *2 活動スペース隣保のため民間団体の連携等活用 SOMPKAアート、まちのST(高齢者向けケルベロスセンター)、くらしの友会、西宮市立幼稚園、スマーベースココカラ。等を活用してACチーム打合、スマーベースを開催 | | | |
| 若林 | 地区アセスは四者で作成している。 | 高齢者や障害者、子どもが地城で遊ぶのがきっかけが不足 | 支援が必要な人が遊ぶる交流の場の不足 | 新たな担い手を育む取組みが不足 | 犯罪や消費者被害を未然防止する抑止力及び防災対策の啓発が不十分 | ・若林5丁目の一帯地域が買い物便利な区域七による地域の分断 | ◎若林・三茶地区見守り・防犯ハトロール | ◎*1 「体(実)操にいらっしゃいませんか? ●雀のサロン(健康麻雀) | ◎*3 セブンイレブン ●雀のサロン | ◎若林・三茶地区見守り・防犯ハトロール ●雀のサロン | ◎*2 ハートふるるカフェ ●雀のサロン | ◎*2 ハートふるるカフェ | ◎若林・三茶地区見守り・防犯ハトロール ◎インダナ活動を活用した避難行動支援要員活動を契機として人材発掘 ◎「在宅避難のスマバパンツの作成・配付 | 国士館 | *1 スポーツクラブの休憩日を借用した体操教室「アレイ子預け」「相棒機能」「居場所」の要素を取り入れて実施 *2 別別養護老人ホームの船を活用 *3 公用の施設内で移動販売、毎丘地区とコラボ | |
| 上町 | 地区アセスは、4者が協働で検討 | 高齢者の見守りや地域づくり活動が十分でない | 近所付き合いによる高齢化による高齢者の増加 | 地域活動成員の高齢化による担い手不足(強化) | AC講座が十分でない(強化) | 災害への対応力が弱い(自助・共助の強化) | 買い物が困難なエリアがある | ◎見守りネットワークやACチーム強化 | ◎*1 多世代交流場づくり ◎居場所づくり、交流の場づくりに情報収集のヒントを学ぶ交流会を開催 ◎防災・防犯をテーマとした交流会の開催介護福祉専門事業者と区の顔の見える関係づくり | ◎防災・防犯をテーマとした交流会から新たな担い手の発掘 | ◎*1 ACチームは四者で取り組んでいる | ●2 上町地区合同の防災訓練(上町地区防災フェスティバル)日頃の生活にまちの安心感を発見し活動を継続していく防犯対策会を開催、防犯対策サポート会を開催 | ●2 上町地区のすべての町会が合同で開催する防災訓練は初めての試み | 豊大 | *1 ぱとぱの会、ラジオ体操、認知症カフェの各グループを実施 *2 町会単独の防災訓練は実施していたが、上町地区のすべての町会が合同で開催する防災訓練は初めての試み | |
| 経堂 | 統一したフォーマットを使用して、情報収集の効率化を図っている。 | 高齢者や子ども等の見守りや活動が十分でない | 多世代の交流活動が少ない | 地域活動の新しい取り手 | 障害者の方の地域参加や交際の機会がない | ・地域の防災力低下の懸念・避難行動要支援者の不安確認活動が十分でない | 駅前や狭い道路での自転車の運転マナーが悪い。 | ◎*2 民生・児童委員と町会、学校関係者、四者の情報交換会議 | ◎*1 相談機能を持ったフードドライブ、イキイキ演芸会 ◎*3 子ども天国 ◎ボランティア交流会 | ◎AC講座 ◎見守りネットワーク等を通じた担い手不足の強化 | ◎AC講座 ◎見守りネットワーク等を通じた担い手不足の強化 | ◎RUN伴、落語会、オレンジビジネス、●鉄鋼に行こう ●認知症カフェ | ◎③町会開催の防災意識調査の実施 ●4年女性認知症に特化したカフェ ●5宅地事業者等主催、月1回開催による勉強会(月1回宅地事業者主催、外部講師による勉強会) | 豊大 | *1 計算事務の効率化充実 *2 おねむき会議の単位に分けて実施 *3 小田急コミュニティの協力を得て子ども関連のイベントを開催 | |
| 下馬 | 各事業の情報交換、各イベントへの参加により連携を図っている。 多様な活動(個別事業)の情報共有 | 高齢者の孤立化、デジタルハイギークが生じている | 若い世代が地域活動に十分につながっていない。 役員等の担い手不足 | 災害時の在宅避難の推進が不十分 | ●2 『地域のことを話す会』(おやじの会第50歳代版) ●都営替えに伴う転入者のコミュニケーション支援 ●LINEで「下馬野沢くわく通話」 | ◎地域のことを話す会(おやじの会第50歳代版) ●2 『まちの自然体験(日大みどりの会)』 ●都営替えに伴う転入者のコミュニケーション支援 ●LINEで「下馬野沢くわく通話」 | ◎セブンイレブン | ◎65歳到達時に手紙を送付し来所者へ配付(対象者拡大) ◎アクリルを耐熱性の高い樹脂で複数枚重ねて手紙を封入 ◎Dカフェ世田谷下馬 | ◎「下馬地区防災マップ」、「在宅避難のすすめ」の配付 ◎病院会議 ◎下馬・野沢・日大防災(防災体験)スケッチブック ◎3 下馬かるがも、Sで情報共有とネットワークづくり | ◎下馬地区防災マップ ●1 本交換会 ◎(当事者)本人交換会 ◎(会員)男性家族会 ◎Dカフェ世田谷下馬 | 日大 ●*1 下馬・野沢・日大防災(防災体験)スケッチブック ●2 中高生と高齢者の交流の場 ●3 福祉事業者の防災連絡会 | *1 地区防災力の向上や多世代交流機会の創出を目的とした、町会と日大の協働による防災イベント *2 中高生と高齢者の交流の場 *3 福祉事業者の防災連絡会 | | | | |
| 上馬 | 各事業の情報交換のほか、四者で進める事業の実施について検討。地区アセスは、まちこま会をもとに、事業者と協議し必要に応じて定期的に実施 | 見守館未整備地盤のため、地区内に子どもたちの居場所と多世代交流の場が少ない | 地域活動の担い手の高齢化が促進されるが、それが少ない | 災害に関する自助の推進 | 地形リスクによる生活不便 | 地区住民作品等の展示コーナー開設 | ◎*1 みんなの居場所 ◎*2 「まつこ大会」 ●高齢者住宅での懇親会 | ◎65歳到達時にイシント、各種事業で配布 ◎(胸浦大)学の学生による地域活動の参加を奨励 | ●NPO法人、大人、高齢者、障害者など多世代交流を目的とした居場所 ●江浦大の学生による地域活動の参加を奨励 | ●NPO法人、大人、高齢者、障害者など多世代交流を目的とした居場所 ●江浦大の学生による地域活動の参加を奨励 | ●1 子ども、若者、子育て世代、高齢者、障害者など多世代交流を目的とした居場所 ●2 月曜日午後開催による進化型防災訓練の実施 | ●江浦大学内海ゼミによる進化型防災訓練の実施 ●2月開催による勉強会 | *1 1子ども、若者、子育て世代、高齢者、障害者など多世代交流を目的とした居場所 *2 月曜日午後開催による勉強会 | | | |

四者連携に参加した児童館の効果

世田谷地域版地域ケア連絡会での池尻児童館の報告から

- ・多世代交流が広がり地域の活性化、助け合いの地域形成につながった
- ・児童館未整備地区で外遊びを関係機関と協力して実施し、外遊びを通して子ども達の「生きる力」を育む場が拡大した
- ・支援が必要な家庭の発見や支援の機会が増加した
- ・中高生の活躍の場の拡大や自己肯定感の向上、担い手の育成につながった

三茶そとあそび実施状況



児童館×四者連携の取組み
池尻児童館がやがや村まつり



■地区課題と事業の効果、今後への期待

- ① 身近な福祉相談の充実と区民ニーズへの即時対応が図られ、各地区のアセスメントもすすみ、課題に対する取り組みも進んできた。一方、8050やゴミ屋敷などの困難事例に対し、解決に向けた長期的なかかわりや働きかけが必要であることが全区の課題として上がり、福祉緊急対応の見直しや特別対策支援チームの設置等、対応の充実を図っている。
- ② 三者連携に児童館が加わったことで、対象を限らない見守りネットワークや居場所づくり、多世代交流の取組みが進んできている。また、各地区での先進的な取組みを全区や地域で共有し、各地区で取り入れる好循環の仕組みも構築してきた。
- ③ 今後の課題としては、民生委員や町会の担い手の確保などの人材活用の課題が残っている。児童館を中心とした社会資源開発の他、若い世代が活動の担い手となれるような意識的な働きかけや領域を超えたまちの課題への対応の仕組みづくりも必要。